小松じんぶん通信

第2号　H30年7月　発行
石川県立小松高等学校　NSH担当

県内企業講座　6月29日(金)

本校の卒業生であり、小松精練株式会社代表取締役会長の中山賢一氏を講師にお迎えし、

今、わが社の求める社員像「やっぱり、“よそ者”、“若者”、“バカ者”だ！」

という題で講演をして頂きました。地元のトップ企業でグローバルに活躍するOBのお話を伺い、生徒たちにとって、今後の進路や生き方を考えるきっかけになりました。

新幹線の車両のつなぎ部分に使われている素材です。

太鼓の素材にも使われています。
とても、気持ちの良い音でした。

中山会長の話の中でも、網を張り情報が飛んでくるのを待つ受け身な「クモの巣型人間」ではなく、甘い蜜を求めて自ら飛んでいく、**能動的な「ミツバチ型人間」であってほしい**という言葉は、生徒の心に強く響いていました。

●生徒の感想より

・素直になり、挑戦をし、失敗したとしてもそこから何かを学ぶことが、今の私たちにとって一番重要であると思います。グローバル化が進んで日本国内だけではなく、世界を相手に競い、また協力していく時に想像力というものが日本の武器になると思います。だから、今必要とされている人間は、待つのではなく変化している社会に対応できる人間であり、そういった「ミツバチ型人間」に私たちはなる必要があるということを頭において生活していかなければならないと思いました。

・世の中は、文系だけでも理系だけでもまわらない、互いが然るべきはたらきを担うからこそ、世の中が機能するのだと感じました。また『「文系」のはたらきは世の中に新たなアイディアを供給することだ』という言葉からも多くのことを感じました。世の中に供給する新しいアイディアは世の中が必要とする、かつ儲かるアイディアでこのアイディアを生み出すためにも、世の中の幸せ、誰かの幸せに対して、またお金に対してハングリーである必要があると思います。僕は将来、「ハングリーな文系」として小松精練株式会社さんのように国内だけでなく、国外でも必要とされるような人材へ近づいていきたいと思いました。

・今回の講演会を通して最も重要なことは、「主体性をもつ」ということではないかと自分の中では解釈している。最後に、夢を大切に、そして自分で限界をつくるなということをおっしゃっていたが、それもすべて「主体性」のもとにあるのではないかと思った。これから将来を考えていくにあたって、何事にも「主体性」を持って取り組んでいきたい。その中で、人との付き合いを大事にできる人でありたいと思う。

※適宜省略してあるところがあります。

京都大学研究室を訪問しました　7月10日(火)

●本校OB・OGの京大生と交流会

●大学の教授と懇談　＆　講義・ゼミを初体験！

A班：人間形成論（松本　卓也先生）

天才と狂気は紙一重という導入のもと、精神病についてお話してくださいました。また生徒たちからの相談にも、笑いを入れつつ楽しく答えてくださいました。

B班：文化・地域環境論（梶丸　岳先生）

様々な国に行かれた先生のお話は生徒たちも興味津々でした。帰りのバスでは、先生に教えていただいたラオス語を話す生徒も見られました。

C班：ドイツ語授業（細見　和之先生）
社会相関論　（浅野　耕太先生）

生徒１０人全員の質問に丁寧に答えてくださいました。人文コースの課題探究についても、今後の方向性を的確にアドバイスしてくださり、生徒もそれに聞き入っていました。

D班：メディア文化学（杉本　淑彦先生）

各学生から京都西山への旅行に関するプレゼンがあり、それに対して先生方からコメントがありました。文学部としての旅行の企画なので、ストーリー性や社会的弱者からの視点が必要だと気付きました。

●生徒の感想より

・自分が大学に行ったらどんな風に学んでいきたいのかを想像することができました。
・今社会が自分たちに求めているものは何かを熟考し、いかに新しい切り口を開けるかが大事になってくる。
・大学生になると誰かが指示を出してくれるわけではないので、自分でよく考えて主体的に行動する力を今からつけていかなければならないと思います。
・学生の人たちの話し方や振る舞いなどとても堂々としていてカッコ良く見えました。それは単に自分たちより年上だという理由だけでなく、自分の興味のあることをし、そのことや自分自身に自信をもっているからなのだと思いました。

★人文コース今後の予定
8月24日Jゼミ中間発表　　9月19日～21日関東ヒューマンセミナー